

## 平成 26 年度特定地域再生事業費補助金事業の概要書

【テーマ：②ーイ】

1 事業名	
<small>こうりゆう</small> 交流イノベーション	
<small>せかいのうぎょういさん いじ</small> 世界農業遺産の維持・活用計画推進事業	
2 事業主体の名称	
<small>いしかわけん すずし</small> 石川県珠洲市	
3 新規・継続	
新規	
4 補助金事業の期間	
平成 26 年 8 月 ～ 平成 27 年 3 月	
5 特定地域再生事業費補助金の種類	
特定地域再生計画策定事業	
特定地域再生計画推進事業	○
6 要望国費	
6, 250, 000 円	
7 事業の概要	
<p>珠洲市は能登半島先端部に位置する過疎地域である。</p> <p>人口減少・少子高齢化にともなって衰退する地域経済を、交流人口拡大によって活性化することをめざす。しかし、旅行目的地としての魅力が乏しく、人口減少にともなう利用者減少により、必要最小限の交通サービスしか提供されておらず、観光客の旅行動機を喚起することが必要である。</p> <p>珠洲市を含む「能登の里山里海」は平成 23 年世界農業遺産に認定されたが、それらの構成要素に代表される生活文化を活用することで、地域の魅力向上を図る。あわせて、北陸新幹線金沢開業（平成 27 春予定）をみすえ、交通アクセス環境の整備を一体的に行う交流イノベーションをめざす。</p> <p>このため、地域住民が参画しながら、地域情報の収集、人材育成、プロモーション活動等を展開するツアーを実施し、地域資源資源を活かした新たなツアー造成を行う。また、旅行目的地の魅力向上策として、珠洲市見付海岸と能登町恋路海岸におけるナイトイベントなどを行う。これらの取組を契機として、ハード整備やプロモーション活動、受け入れ態勢づくりを行うものとする。</p> <p>さらに、鉄道や特急バスなどの既存公共交通と連携した新たな公共交通として、のと鉄道穴水駅や穴水此木バス停と珠洲市・能登町を結ぶ小型バスを運行し、金沢駅（金沢市）や和倉温泉（七尾市）からの交通アクセス環境を整備する。また、地域内周遊を可能とするミニ交通の整備をめざす。</p> <p>これらの取組を一体的に進めるため、珠洲市および隣接する能登町と連携し、観光・商業団体、交通事業者が協働する体制のもとに実施する。</p> <p>これらを平成 26 年度は試行的に実施し、平成 27 年度以降は本格実施をめざす。</p> <p>また、これらの取組により、独特の生活文化を色濃く残し、交通アクセスが不利なわが国の過疎地域における産業活性化のモデルを提示する。</p>	

## 平成 26 年度特定地域再生構想の内容説明書

【テーマ：②ーイ】

1 特定地域再生構想の名称	
<small>こうりゅう</small> 交流イノベーションによる <small>せかいのうぎょういさん</small> 世界農業遺産の <small>いじ</small> 維持・ <small>かつようこうそう</small> 活用構想	
2 事業主体の名称	
<small>いしかわけん すずし</small> 石川県珠洲市	
3 地域の現状・取組の経緯・取組の位置づけ	
3-1 地域の背景・現状	<p>(1) 人口や社会経済の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・珠洲市の人口は、住民基本台帳ベースで平成 26 年 2 月 28 日現在 16,214 人で、過去 10 年で約 31%減少しており、高齢化率（65 才以上）は、約 40%である。</li> <li>・珠洲市の経済は縮小傾向にある。一次産業である農業粗生産額、漁獲高は急激に減少。製造品出荷額は平成 6 年に比べて 21 年は半減。商品販売額も減少している。この傾向は、隣接する能登町も同様である。</li> </ul> <p>(2) 地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済の衰退とともに雇用環境が悪化。労働人口が流出し、少子高齢化に歯止めがかからない。雇用創出を図るためには、<u>交流人口の拡大による地域経済の活性化</u>が課題である。</li> <li>・平成 27 年春に開業予定の北陸新幹線金沢開業を契機とした交流基盤づくりと魅力向上を図ることで、交流人口拡大のチャンスを迎えている。</li> <li>・平成 23 年、珠洲市・能登町を含む「能登の里海里山」が、国連食糧農業機関（FAO）の国際フォーラムにおいて、<u>世界農業遺産に認定された</u>。これは、能登の里山里海の生活文化が、世界的にも貴重な資源として認められたことになるが、居住人口が減少していくことで、<u>自然と人の暮らしが共生する生活文化が失われていく危険性</u>をはらんでいる。一方で、世界農業遺産認定をきっかけに、近年は<u>能登の素朴な生活文化の体感を希求する観光客がみられるようになっている</u>。</li> <li>・能登の素朴な生活文化とは、能登で営まれる農山漁業であり、日々の食生活であり、小さな集落毎の年中行事であり、塩田や炭焼き、珪藻土などの地域産業である。これらの生活文化は、<u>能登に当たり前に存在するものであり、さまざまな分野にわたるものであるため、これらの資源を活かして観光客のニーズに応え観光産業に結びつけるなど、新しい産業の創出につながっていない</u>。</li> <li>・また、交流人口拡大に向けた交通基盤の充実が課題である。民間事業者によって運行される公共交通は、人口減少とモータリゼーションにともなう利用減少で、事業者の経営危機を招いており、行政の赤字補填によって、辛うじて生活者にとって必要最低限の公共交通の維持している状態に過ぎず、珠洲市や能登町への観光客は、そのほとんどがマイカーやレンタカーを利用しているのが現状である。北陸新幹線を利用する観光客は、自動車保有率の低い首都圏在住者（普段運転を</li> </ul>

しない層)やシニア層(運転に不安を感じる層)が多いことが想定され、旅行行動意欲の高い女性の旅行対象となりにくくなっていることから、金沢駅からの交通手段の確保が課題となっている。



**(3) 地域資源**

- ・能登半島の先端部に位置する珠洲市・能登町には、農林漁業のほかには主要な産業がなく、多くの旅行者を惹きつける観光地にも恵まれていないと考えられてきた。
- ・しかし、能登の豊かな自然に立脚した農林漁業の生活には、能登で培われ伝承されてきた生活文化や農業技術などの生活の知恵が蓄積されており、平成 23 年 6 月に、珠洲市・能登町を含む「能登の里山里海」が国連食糧農業機関 (FAO) によって世界農業遺産に認定された。
- ・「能登の里山里海」は、人の暮らしと自然が共生することによって生み出された景観であり、産業であり、文化である。棚田景観をはじめとする農村景観、揚げ浜式塩田や炭焼きなどの伝統産業、祭りなどの伝統行事や食などの生活文化など、さまざまな要素によって構成されている。
- ・これらの資源を活かして、持続可能な生活をめざす取り組みとして、地域古来種を活かした新たな地域産品の開発・販売、大学機関との連携による地域文化の研究のほか、珠洲市や能登町の住民が体験ツアーの開発や農家民宿など、交流人口の拡大に取り組んでいる。
- ・とくに、40 軒以上の農家が連携して農家宿泊 (民泊) や、修学旅行、農村体験を中心とするインターンシップを受け入れる「春蘭の里」(能登町)は、平成 24 年度の地域づくり総務大臣表彰を受賞。また、大浜大豆を活用したコミュニティビジネスを展開する「株式会社のろし」(珠洲市)は、平成 24 年度の過疎地域自立活性化優良事例として総務大臣賞を受賞するなど、一定の成果をあげつつある。
- ・これらの取り組みの成果をさらに拡大し、世界農業遺産構成要素をはじめとする地域資源を活用して地域の魅力向上を図るとともに、交流人口拡大に向けた交通基盤整備を一体的に進めることで、奥能登の交流イノベーションによる地域活力向上が可能と考える。

※イノベーション:資源から、新しい切り口、新しい活用法で新しい価値を創造し、変革を生み出すこと。

3-2 取組の  
経緯・位置  
づけ

**(1) 交通基盤の充実に向けた取り組み**

**■珠洲市内および能登町内における交通基盤の充実に向けた取り組み**

- ・珠洲市内および能登町内における交通基盤の充実に向けて、既存路線バスの利用促進のほか、交通空白地域の解消に向けた取り組みを展開している。
- ・これらの取り組みは、珠洲市内および能登町内に限定されたもので、主に居住者を対象とした取り組みである。

**■奥能登と金沢を結ぶ広域的な交通基盤の充実に向けた取り組み**

- ・奥能登 2 市 2 町 (輪島市、珠洲市、穴水町、能登町) では、広域圏事務組合を中心に、金沢を結ぶ交通基盤充実に向けた調査、検討を行ってきた。(平成 21 年度、国土交通省「奥能登地域における広域公共交通活性化プログラム」、平成 22 年度には総務省「過疎地域等自立活性化推進交付金事業」)

- ・しかし、珠洲市・能登町と、鉄道駅（のと鉄道）に比較的近い輪島市や穴水町とは、ルート設定や交通手段に対するニーズの違いが明らかとなり、奥能登2市2町による取り組みには限界がみられた。



本事業構想は、ルート設定や交通手段の選択に同一ニーズが認められる珠洲市・能登町の1市1町の連携による取り組みを前提としたものとなっている。

(2) 地域資源（世界農業遺産など）を活用した交流人口拡大の取り組み

■農山村体験プログラムの提供（春蘭の里実行委員会）

- ・平成8年、能登町鮭尾・宮地地区で立ち上げられた村おこし団体。農家民宿が軌道にのり、地域資源を活用した交流ビジネスを展開。平成24年度地域づくり総務大臣賞を受賞。

■交流拠点施設を活用した農産物6次産業ビジネス（株式会社のろし）

- ・珠洲市狼煙地区住民の出資によって設立された組織。地区住民によって復活した固有種「大浜大豆」を加工し、地豆腐、豆乳アイスクリーム、豆腐ドーナツなどを製造販売。平成24年度過疎地域自立活性化優良事例として総務大臣賞を受賞。

■里山里海の研究・保全活動（金沢大学能登学舎、NPO法人おらっちゃんの里山里海）

- ・平成18年に旧小学校校舎（珠洲市小泊）に金沢大学能登学舎がオープン。能登の里山里海の基礎研究や保全活動、人材育成など、地域との連携による事業を実施。
- ・金沢大学能登学舎の活動を支援するため、NPO法人おらっちゃんの里山里海が発足。荒廃山林や荒廃水田の復元活動など、里山里海の保全活動を実施。

■プロモーション・PR活動（NPO法人能登すずなり、能登町観光協会、珠洲市、能登町）

- ・NPO法人能登すずなりや能登町観光協会では、珠洲市や能登町の祭りなど世界農業遺産の構成要素のPRを行っている。また、自治体においても積極的なPR活動や地域資源の維持保全のための活動支援を行ってきた。



本事業構想は、これまで珠洲市・能登町内で個別に行われてきた世界農業遺産構成要素をはじめとする地域資源の活用の取り組みを、NPO団体等と連携しながら、観光団体や地域団体、自治体（行政）、交通事業者が連携した体制をつくり、一体的に実施するものとなっている。

4 特定政策課題の内容及び課題解決に資する取組等	
4-1 項目	②地域における未利用の又は利用の程度の低い資源を有効に活用した産業の振興 イ 地域における農林水産物等の有効利用による6次産業化や観光・健康等の他分野との連携を通じた地域活力の向上
4-1-1 具体的な政策課題の内容	<p>課題1. 北陸新幹線開業をみすえた奥能登公共交通の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年春北陸新幹線開業で、首都圏や新幹線沿線から石川県への来訪者の増加が期待される。現在の奥能登観光の来訪者行動は、マイカーやレンタカーの依存度が高く、積雪の多い冬期を中心に、不案内な土地での自動車運転に不安を感じるシニア層や女性、運転免許をもっていない若年層などが、奥能登を旅</li> </ul>

	<p>行先として選定しにくい状況となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線で来訪した旅行者が奥能登を旅行するためには、金沢駅（金沢市）や和倉温泉（七尾市）から、公共交通で来訪・周遊できる環境を整える必要がある。</li> </ul> <p><b>課題 2. 世界農業遺産「能登の里山里海」の活用による魅力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界農業遺産の認知度は高まりつつあるが、これらの資源を地域経済活性化に活かす取組みは十分でない。これらの資源は生活文化に立脚していることから、地域住民が中心となって魅力の掘り起こすことが必要である。</li> <li>・官民が連携して、旅行者が旅行を楽しむことができるプログラムを企画するとともに、その運用のためのガイド体制の構築や消費者へのプロモーション、販売体制の構築が求められる。</li> </ul>
<p>4-1-2 目標</p>	<p>（目標 1）公共交通を利用する旅行者の割合の増加 奥能登への来訪移動手段公共交通 2.2%（平成 25 年度）→3.5%</p> <p>（目標 2）奥能登の交流人口の拡大 珠洲市・能登町宿泊者数 158,961 人（平成 25 年度）→175,000 人</p>
<p>4-1-3 具体的な政策課題の解決に資する解決策・取組</p>	<p>&lt;課題 1 に対する取組&gt;</p> <p><b>取組 1-1. 珠洲・能登町ー穴水シャトルバス運行</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥能登において、比較的運行本数が充実している輪島行きの特急や、和倉温泉からの鉄道運行ダイヤにあわせて、それらの交通拠点（のと鉄道穴水駅、穴水此木バス停）と珠洲市・能登町を結ぶ小型バスを運行する。</li> </ul> <p><b>取組 1-2. 観光地を結ぶミニ交通の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・珠洲市内や能登町内の主要観光地を結ぶ小型シャトルバスや、個人で利用できる超小型観光モビリティの活用など、珠洲市内・能登町内の周遊を実現する。</li> </ul> <p><b>取組 1-3. レンタカー活用可能性調査・検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奥能登の観光・交通拠点や能登空港、金沢駅などで自由に利用できるレンタカーの可能性について調査する。</li> </ul> <p>&lt;課題 2 に対する取組&gt;</p> <p><b>取組 2-1. 世界農業遺産構成要素を活かした地域旅行商品の造成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通による来訪者や宿泊客をターゲットとした「バスツアー」「ナイトツアー」「早朝ツアー」のほか、里山里海を活用した「体験ツアー」などを造成する。</li> </ul> <p><b>取組 2-2. 世界農業遺産案内人の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域旅行商品の実施を可能とする案内人（ガイド）の人材を育成する。</li> <li>・案内人（ガイド）育成のためのテキストの作成や学習会を開催する。</li> </ul> <p><b>取組 2-3. 販売・プロモーション体制の構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者からの問い合わせを受け付けるとともに、それらの旅行者の受け入れ先との調整を行う窓口組織を整備する。</li> </ul> <p><b>取組 2-4. 奥能登の里山里海を体感する旅行目的地の活性化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産構成要素などの地域資源を活かして、旅行目的地の魅力を高める。能登珪藻土の象徴である見附島を有する見付海岸や恋路海岸などの海岸公園、半島船体部の狼煙・祿剛埼や美しい松林と海に囲まれた鉢ヶ崎海岸などにおいて、地域住民と連携したソフト施策や必要に応じたハード整備を実施する。</li> </ul>

	<p><b>取組 2-5. 地域資源情報アーカイブ事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝承・伝説、中世を中心とする歴史（山城や平家の物語）、古代の大陸やアイヌとの交流など、これまで明確な記録が残されていない埋もれた情報を収集して整理するとともに、出版物やSNSなどを活用した発信を行う。</li> </ul>
<p>4-1-4 活用事業</p>	<p>① 関係府省の支援措置を活用して実施する事業</p> <p><b>■えんむすビーチミニ交通事業（観光地を結ぶミニ交通の整備）</b></p> <p>&lt;実施主体&gt; 珠洲市（能登町と連携）</p> <p>&lt;事業費&gt; 2,000千円（概算）</p> <p>&lt;事業内容&gt; 見付海岸（珠洲市）および恋路海岸（能登町）を結ぶ「えんむすビーチ」における周遊交通を整備するため、ミニ交通となる超小型モビリティや自転車の貸し出しを実施する。</p> <p>&lt;実施期間&gt; 平成27年度</p> <p>&lt;活用する支援措置の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所管府省 国土交通省</li> <li>・ 支援措置 超小型モビリティの導入促進事業（公募事業へ応募）</li> <li>・ 補助金額 1,000千円（概算）</li> <li>・ 対象経費 超小型モビリティの特性・魅力を引き出す創意工夫にあふれ、低炭素・省エネ型まちづくりと一体となった先導・試行導入事業</li> </ul> <p>② 地域再生法に基づく支援措置を活用して実施する事業</p> <p>特になし</p> <p>③ 連動施策（※）を活用した事業</p> <p><b>■珠洲・能登シャトルバス運行（珠洲・能登町ー穴水シャトルバスの運行）</b></p> <p>&lt;実施主体&gt; 珠洲市（能登町と連携）</p> <p>&lt;事業費&gt; 38,000千円（概算）</p> <p>&lt;事業内容&gt; のと鉄道穴水駅・輪島特急穴水此木バス停と、珠洲や宇出津（能登町）を結ぶ小型バスを運行する（各方面1日2往復）。珠洲市や能登町でのイベント開催時のほか、土日祝日および前日に運行。のと鉄道や輪島特急バスのダイヤと接続することで、金沢から珠洲・能登町への移動の利便性拡大を図る。シャトルバス運行にあわせ、適宜、利用者アンケートによるモニタリングを実施し、運行サービスを改善する。</p> <p>&lt;実施期間&gt; 平成26年度～30年度</p> <p>&lt;活用する支援措置の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内閣府「特定地域再生事業費補助金」</li> <li>・ 支援措置の額 4,000千円</li> </ul> <p><b>■珠洲・能登里山里海ツアー造成事業（世界農業遺産構成要素を活かした地域旅行商品の造成、世界農業遺産案内人の育成、販売・プロモーション体制の構築、地域資源情報アーカイブ事業）</b></p> <p>&lt;実施主体&gt; 珠洲市（能登町と連携）</p> <p>&lt;事業費&gt; 5,500千円（概算）</p> <p>&lt;事業内容&gt; 世界農業遺産「能登の里山里海」構成要素などの地域資源を活</p>

	<p>かした着地型周遊ツアーを造成する。ツアー造成にあたっては、地域団体や観光協会が連携して体験モニターツアーを実施するとともに、旅行代理店への営業活動、旅行雑誌等へのPR活動を展開する。また、地域情報を収集するため、奥能登の伝説を収集し、物語としてとりまとめる。</p> <p>&lt;実施期間&gt; 平成26年度～28年度</p> <p>&lt;活用する支援措置の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府「特定地域再生事業費補助金」</li> <li>・支援措置の額 1,250千円</li> </ul> <p><b>■恋路見附体験メニュー開発およびプロモーションの展開(世界農業遺産構成要素を活かした地域旅行商品の造成)</b></p> <p>&lt;実施主体&gt; 珠洲市(能登町や恋路見附アクティビティ推進協議会と連携)</p> <p>&lt;事業費&gt; 3,500千円(概算)</p> <p>&lt;事業内容&gt; 珠洲市と能登町に隣接する恋路海岸と見付海岸を結びつけて、地域イメージを形成するイベント開催や各種サービスの提供、アクティビティメニューの開発、プロモーション事業を展開する。</p> <p>&lt;実施期間&gt; 平成26年度～平成27年度</p> <p>&lt;活用する支援措置の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府「特定地域再生事業費補助金」</li> <li>・支援措置の額 1,000千円</li> </ul> <p><b>④ 自治体等事業主体の単独事業</b></p> <p><b>■レンタカー活用可能性調査(レンタカー活用可能性調査・検討)</b></p> <p>&lt;実施主体&gt; 珠洲市</p> <p>&lt;事業費&gt; 2,000千円(概算)</p> <p>&lt;事業内容&gt; 奥能登の観光・交通拠点で自由に利用できるレンタカーの可能性について調査・検討を行う。</p> <p>&lt;実施期間&gt; 平成28年度</p> <p><b>■見付海岸再編整備事業(奥能登の里山里海を体感する旅行目的地の活性化)</b></p> <p>&lt;実施主体&gt; 珠洲市</p> <p>&lt;事業費&gt; 100,000千円(概算)</p> <p>&lt;事業内容&gt; 奥能登観光の集客拠点のひとつである見付海岸の施設再編を図り、来訪者の滞在時間の伸長と消費行動に結びつける。また、体験プログラムの充実などによって、旅行目的地としての新たな魅力創出を図る。</p> <p>&lt;実施期間&gt; 平成26年度～平成28年度</p>
<p>4-1-5 特定政策課題解決の寄与度</p>	<p>本事業は、珠洲市・能登町における未利用又は利用の程度の低い資源である世界農業遺産をはじめとする地域資源を有効に活用し、交流人口拡大をめざすことで、珠洲市内・能登町内の各種関連産業を振興する取り組みである。</p> <p>北陸新幹線金沢開業を契機として、能登半島の先端部の交流人口を拡大させるためには、地域資源の活用による魅力向上にあわせて、交通基盤の確保が重要である。最寄りの新幹線駅となる金沢駅から能登半島先端への交通の確保や能登半島先端での周遊交通が確保されて、はじめて地域資源の有効活用が可能となる。</p>

	<p>こうした課題は、都市部から離れた過疎地域の共通課題である。人口の少ない地域では、公共交通利用者が少ないため、民間交通事業者による運行に限界があり、低い運行サービス（運行本数、ダイヤなど）しか提供されない状況にある。また、複数自治体にまたがる長大路線を支えることは困難である場合が多い。</p> <p>この取り組みは、複数の自治体が連携し、住民だけでなく来訪者のニーズを掘り起こして利用増を図りながら、長大路線となる都市部からの公共交通を支える取り組みであり、わが国の過疎地域の交通のモデルを提示することができる。</p> <p>同時に、世界農業遺産「能登の里山里海」構成要素をはじめとする地域資源を活用して交流人口を拡大することで、珠洲市や能登町の農林漁業の消費拡大が期待できるとともに、雇用確保によってこれらの農業文化システムの持続が期待できる。奥能登の生活文化に根ざした祭りや工芸を交流拡大に活かすことで、生活文化の重要性が地域住民に見直される。この取り組みは、生活文化が色濃く残る地方において、生活資源を見直して活用することで、地域産業を活性化させる取り組みであり、地域複数の自治体と地域住民や各種団体が連携しながら展開することで、わが国の過疎地域の産業振興モデルを提示することができる。</p>
--	--

5 評価項目に対する内容	
5-1 国策への寄与	<p>わが国には、過疎地域自立促進特別措置法に規定される過疎地域が 775 市町村存在している（平成 24 年 4 月 1 日現在）。過疎地域は、人口減少率と高齢者比率によって規定されるが、わが国は、人口減少と高齢化が全国の地方でさらに進展することが見込まれている。</p> <p>人口減少局面における経済活性化策として交流人口拡大が有効である。しかし、多くの地域資源は、必ずしもその価値が見出されていない。</p> <p>ここで活用を検討する「能登の里山里海」構成要素も、能登住民にとって当たり前の生活資源である。そのような生活資源は全国どこにでも存在するが、産業発展から乗り遅れた地方ではとくに色濃く残存し、地域ごとに全く異なる資源である。これらの当たり前の生活資源を見直し、その活用策を検討することで、地方での産業振興策のモデルを提示できると考える。</p>
5-2 取組の先駆性・モデル性	<p>生活資源が残る過疎地域は、都市部から離れた地域であることが多いため、交流人口拡大をめざすとき、交通アクセスが課題となる。交流拡大による過疎地域の活性化にとって交通アクセス問題は決して付随的な課題ではない。</p> <p>能登半島においては、来訪者のほとんどが自動車を利用しているが、自動車運転を避けたいと考えるシニア層や女性、首都圏住民などの大きな旅行市場を十分に獲得できていない可能性が高い。このため、過疎地域においては、<u>地域資源の活用による魅力向上（観光インセンティブの向上）と交通アクセスは常にリンクしながら、一体的に整備する取り組みが求められる。</u></p> <p>また、過疎地域では観光サービスや交通サービスの提供には、<u>人材確保が課題</u>となる。高齢化する住民に過大な負担をかけない手法が求められる。</p> <p>このため本事業においては、過疎地域において、交通と観光の担い手となる民間団体・組織が一体となって、交通アクセスを確保するための事業と、地域資源の活</p>



	<p>用による魅力向上策を推進することとしており、交通と観光の一体化と実現のための人材確保を図る点で、先駆性がみられる。</p>
5-3 多様な主体	<p>交通課題と交流ビジネスの振興に一体的に取り組むため、これまで地域ごとに体験観光や農産物・水産物の加工などに取り組んできた NPO 団体や観光協会、商業団体のほか、民間交通事業者や行政が参加する組織体（珠洲市・能登町広域公共交通活性化協議会）を設立した（平成 25 年 6 月 24 日発足）。事業推進にあたっては、本組織体で協議しながら各種事業を進めることになる。</p> <p>また、地域再生構想の策定にあたっては、珠洲市・能登町において先駆的に地域資源の活用したコミュニティビジネスに取り組んでいる団体と意見交換をしながら策定作業を行ってきており、今後もこれらの団体の参画・協力を得て、上記協議会と強固な連携体制をつくりながら事業を推進することができる。</p>
5-4 熟度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年度特定地域再生計画策定事業において、<u>珠洲市と能登町の民間観光関係者と交通事業者、自治体が連携</u>して調査を行い、首都圏居住者が魅力を感じる地域資源が明らかとなった。これらの地域資源を中心に、魅力向上策や旅行商品の造成を行うとともに、地域での受け入れと PR を行うことが可能である。</li> <li>・金沢と奥能登を結ぶ公共交通については、これまでも奥能登事務組合を中心に公共交通活性化に向けた検討を行ってきたが、平成 25 年度特定地域再生計画策定事業において、珠洲市・能登町を来訪する観光客の移動現況（移動パターンや交通手段など）を把握するとともに、冬期イベントにあわせた公共交通の運行を試行した。その結果、金沢からの鉄道を利用した来訪ニーズが高いことなど、求められる新たな公共交通の運行の最適化を図る手がかりを得ることができた。これらの成果をふまえ、珠洲市と能登町の民間観光関係者と交通事業者、自治体が連携した運行が可能と考えている。</li> <li>・このように平成 25 年度までに、地域資源による交流人口拡大と交通確保を一体的に取り組む協働体制がととのえられている。</li> <li>・また、平成 27 年春北陸新幹線金沢開業を契機として、多くの観光客の石川県への来県が期待される。新幹線金沢開業に向けて、石川県や県内自治体が首都圏や沿線自治体へのプロモーション活動を重点的に行っており、本事業の成果との相乗効果が期待できる環境が整っている。</li> </ul>
5-5 その他	<p>過疎地域において交流人口拡大に取り組むことは、地域経済の活性化に寄与するだけでなく、雇用を生み出すことで、大都市部とは異なる自然と共生するライフスタイルを選択が可能となり、日本人のライフスタイルのダイバーシティの推進に寄与すると考えている。</p> <p>これにより、地方の過度な人口減少に歯止めがかかり、地方に存在するわが国の貴重な生活文化が守られる。珠洲市・能登町の取り組みは、地方に残る当たり前の生活文化を資源として産業振興を図るものであり、他地域での汎用性は高く、全国の過疎地域の維持・活性化に寄与する取り組みである。</p>

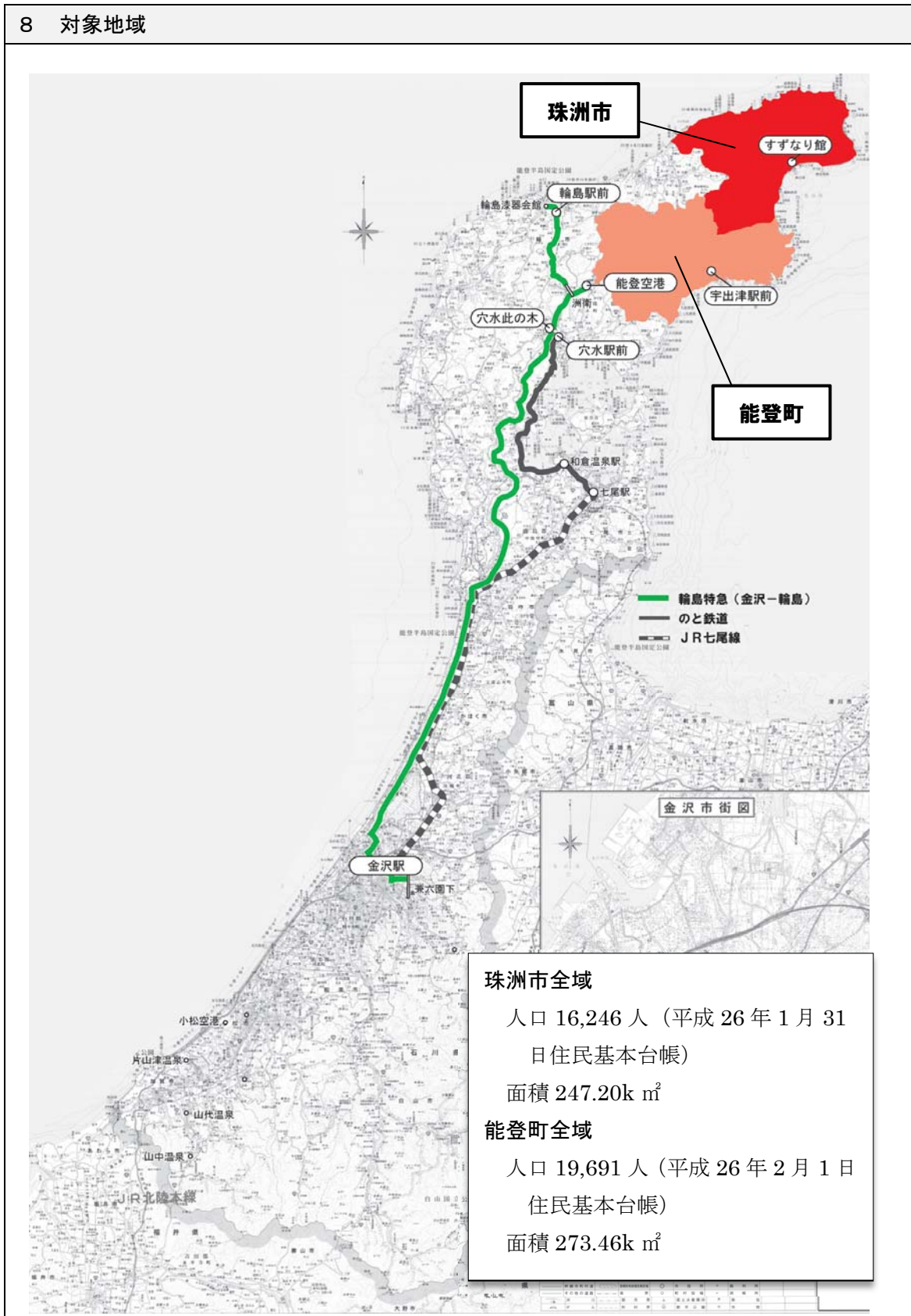
<b>6 活用する規制の特例措置の内容</b>
該当なし

7 スケジュール												
年月 事業名	平成 26 年度											
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
珠洲・能登シャトルバス運行 (珠洲・能登町ー穴水シャトルバス運行)					← 試行運行 (イベント時スポット運行) →	← 試行運行 (常時運行) →				← 運行評価・改善検討 →		
珠洲・能登里山ツアー造成事業 (世界農業遺産構成要素を活かした地域旅行商品の造成ほか)					← ツアー検討・準備 →	← 地域情報収集 (取材) →	← モニターツアー実施 →	← ツアー評価 →	← ツアー評価 →	← 次年度ツアー検討 →		
恋路見附体験メニュー開発 およびプロモーションの展開 (世界農業遺産構成要素を活かした地域旅行商品の造成)					← 魅力向上策の検討 →		← イベント実験 仮設カフェ実験 →			← 次年度体験ツアーの検討 →		
見付海岸再編整備事業 (奥能登の里山里海を体感する旅行目的地の活性化)								← 見付海岸再編整備計画の策定 →				

平成 27 年度												
年月 事業名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	珠洲・能登シャトルバス運行 (珠洲・能登町ー穴水シャトルバス運行)						← 試行運行 →				← 運行評価 改善検討 →	
えんむすビーチミニ交通の 整備 (観光地を結ぶミニ交通の整備)		← 運行準備 →				← 試行運行 →			← 運行評価 →			
珠洲・能登里山ツアー造成事業 (世界農業遺産構成要素を活かした地域旅行商品の造成ほか)		← ツアー検討・準備 →				← ツアー実施 →		← ツアー評価 →		← 次年度ツアー検討 →		
					← PR・プロモーション →							



8 対象地域



## 平成26年度特定地域再生計画推進事業の内容説明書

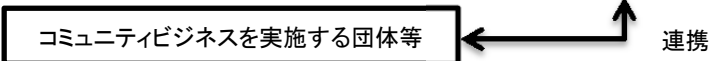
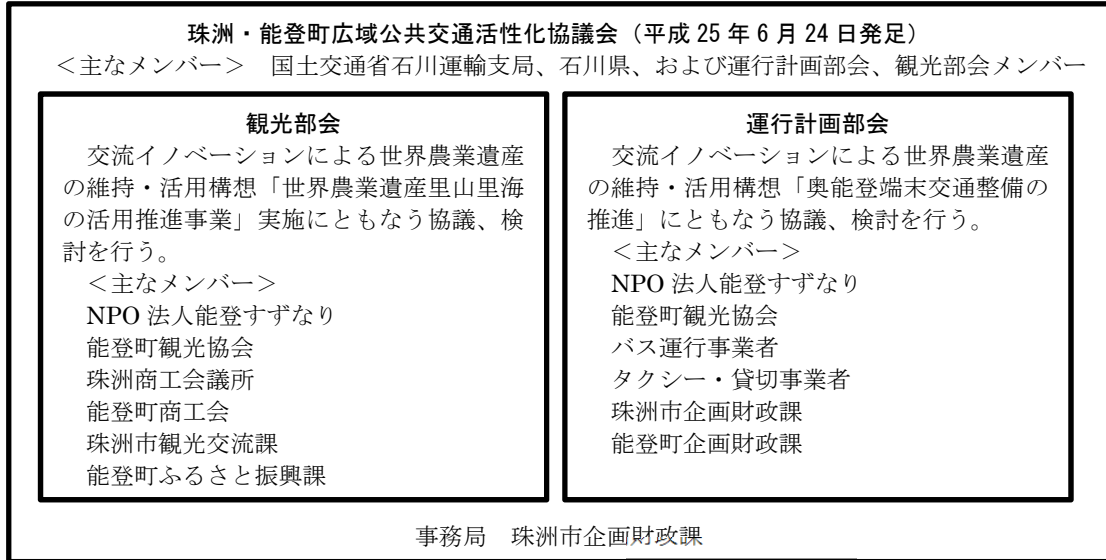
1 事業名	
交流イノベーション <sup>こうりゆう</sup> 世界農業遺産 <sup>せかいのうぎょういさん</sup> の維持・活用 <sup>いじ</sup> 計画 <sup>かつようけいかく</sup> 推進 <sup>すいしん</sup> 事業 <sup>じぎょう</sup>	
2 事業主体の名称	
石川県 <sup>いしかわけん</sup> 珠洲市 <sup>すずし</sup> （石川県 <sup>いしかわけん</sup> 能登町 <sup>の とちょう</sup> と連携）	
3 内容	
3-1 目的	<p>北陸新幹線金沢開業を見据え、公共交通で奥能登へ来訪できる環境を整えることで、北陸新幹線の開業効果を奥能登へ波及させ、奥能登における交流人口の拡大による地域経済の活性化をめざす。</p> <p>また、交通環境の整備とあわせて、奥能登に当たり前に存在してきた生活文化である世界農業遺産「能登の里山里海」の構成要素を中心とした地域資源を活かした旅行商品の造成やプロモーション活動を展開し、奥能登への新たな旅行インセンティブを創出する。</p>
3-2 対象事業内容	<p>のと鉄道穴水駅・輪島特急穴水此木バス停と、宇出津（能登町）や珠洲を結ぶ小型バスを、1日2～4便、イベント開催時と、土日祝日および前日に運行し、金沢駅（金沢市）や和倉温泉（七尾市）からの日帰り旅行を可能にする交通環境を整える。</p> <p>また、あわせて旅行目的地としての奥能登の魅力向上を図るため、公共交通発着にあわせた旅行プログラムの造成と、目的地としての見付海岸周辺の魅力向上を図る。旅行プログラムの造成にあたっては、地域団体等と連携し、地域資源に関する情報収集し、プログラムを造成し、案内ガイドの養成やプロモーションの展開を目的とした体験モニター実験を行って、旅行プログラムの品質向上を図る。</p> <p>見付海岸周辺の魅力向上に際しては、見付海岸（珠洲市）と恋路海岸（能登町）を灯りで結ぶ光イベントの実施、および来訪者へ食文化を発信するカフェの設置をめざした仮設カフェ実験を行う。</p> <p><b>■奥能登公共交通の整備</b> （珠洲能登シャトル運行）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント時の小型バスの運行</li> <li>・週末祝日運行（一年を通じて、土日祝日および前日に、小型バスを運行）</li> <li>・利用状況の記録・整理、利用者アンケートによる評価調査</li> <li>・能登移動ニーズ調査（金沢駅にて、旅行者移動状況・ニーズ調査実施）</li> <li>・運行評価・改善検討（利用状況や評価調査をふまえた運行改善の検討）</li> </ul> <p><b>■世界農業遺産里山里海の活用</b> （珠洲能登・里山里海ツアー造成）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行プログラムの造成に係る地域情報の収集・整理</li> <li>・ツアープログラムの検討・準備・募集</li> <li>・ツアーPR（体験モニターの実施PR）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターツアー実施（体験モニター実験の実施）</li> <li>・ツアー評価調査（モニターツアー参加者を対象とした評価調査を実施）</li> <li>・改善検討（モニター実験をふまえた旅行プログラム改善の検討）</li> </ul> <p>（恋路見付海岸の魅力向上メニューの開発）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見付海岸と恋路海岸を灯りで結ぶイベントの開催や仮設カフェの実験</li> </ul>
<p>3-3 独自性</p>	<p>本事業は、交流拡大による地域経済の活性化をめざして、世界農業遺産の構成要素を中心とする当たり前の生活文化を、新たな地域資源として再発見して、新たな旅行商品の造成などに活用して地域の魅力向上をめざすものである。同時に、平成 27 年春の北陸新幹線金沢開業をみすえ、都市部から離れた地域への交通アクセス問題を解決するため、公共交通環境を整備し、マイカーやレンタカー中心の奥能登旅行の新たな旅行者獲得をめざす。</p> <p>過去に採択されたものとは異なり、<u>地域の魅力向上と交通環境整備を一体的に進める交流イノベーションを喚起すること</u>で、独特の生活文化をもち、都市部から離れたわが国の多くの過疎地域の活性化モデルを提示するものである。</p> <p>またこれらの取組を、同一課題を抱える隣接自治体と連携して行う。</p>
<p>3-4 必要性等</p>	<p>わが国の半島部や島嶼部、山間部などは、都市部から離れた地域であることから、経済発展から立ち後れ、高齢化・人口減少が著しい過疎地域が多い。反面、これらの地域の多くは開発が進んでおらず、地域特有の生活文化が残されていることが多く、世界農業遺産「能登の里山里海」のように、その価値が新たに見直されている地域資源が多い。これら生活文化に根付く地域資源は、これまで価値が認められていなかったために観光交流や商品開発に活かされることがなかった。</p> <p>また、都市部から離れた過疎地域において交流拡大による活性化をめざすためには、交通アクセス環境の整備が重要な課題となる。</p> <p>本事業では、地域資源の活用による旅行目的地としての魅力向上策と交通移動環境の整備を一体的に実施することで、交流人口の拡大効果を最大化する交流イノベーションをめざすものであり、わが国の過疎地域における産業活性化のモデルケースを提示するものである。</p> <p>本補助金を活用し、金沢や和倉温泉から奥能登への交通アクセス問題を解決し、それと並行して、国土交通省「超小型モビリティの導入促進事業」などを活用して、奥能登地域内の周遊環境を構築し、公共交通における奥能登への来訪と周遊を可能にする。</p> <p>また、本補助金を活用して、奥能登地域内における旅行ツアーの造成や魅力イベントを実施して旅行インセンティブづくりのきっかけとする。その後は、自主事業などによって、魅力向上のためのハード整備や営業プロモーション活動の持続的展開を行うものとする。</p>

#### 4 体制

珠洲市、能登町の地域団体やNPO 団体、および交通事業者、自治体が参画する、珠洲・能登町広域公共交通活性化協議会が発足している。(平成 25 年 6 月 24 日発足)

具体的な検討や実施は、協議会のもとに置かれた「運行計画部会」「観光部会」において執り行うこととなっており、民間と行政が一体的に事業を実施することが可能である。



#### 5 事業費

要望国費 6, 250千円

#### 6 スケジュール

項目	年月	平成 26 年度						
		8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
<b>珠洲能登・穴水シャトル運行</b>								
スポット運行		←→						
週末祝日運行				←→				
利用者数・アンケート調査		←→						
能登移動ニーズ調査		←→						
運行評価・改善検討							←→	
<b>珠洲能登・里山里海ツアー造成</b>								
ツアー検討・準備・募集		←→						
ツアーPR		←→						
モニターツアー実施				←→				
ツアー評価調査				←→				
地域情報の収集調査		←→						
改善検討						←→		
<b>恋路見附海岸の魅力向上メニュー開発</b>								
灯りのイベント開催			←→					
仮設カフェ実験			←→					



# 交流イノベーションによる世界農業遺産の維持・活用構想【石川県珠洲市】

＜特定政策課題：地域における未利用の又は利用の程度の低い資源を有効に活用した産業の振興＞

## 背景・現状

### ○珠洲市のデータ

- ・人口：16,214 人
- ・世帯：6,465 世帯
- ・面積：247.20 km<sup>2</sup>
- (平成 26 年 2 月 28 日現在)

### ○地域経済の衰退

- ・地域経済の衰退による若年人口の流出
- ・農業生産、漁獲高、製造品出荷額、商業販売額などの減少傾向の継続

### ○公共交通の衰退

- ・利用者が少ないため低い公共交通サービスと持続性の確保
- ・冬期の雪道やシニア、女性客などの移手段確保

### 契機 1. 世界農業遺産「能登の里山里海」の認定(平成 23 年)

- ・豊かな自然と共生する能登の素朴な生活文化の価値の見直し

### 契機 2. 北陸新幹線金沢開業(平成 27 年春・予定)

- ・首都圏と北陸の交流人口拡大の可能性



能登半島先端部  
(珠洲市・能登町)

## 一体的に進める交流イノベーション

### 1. 奥能登公共交通の整備

- ・珠洲・能登町ー穴水シャトル運行
- ・観光地を結ぶミニ交通の整備
- ・レンタカー活用可能性調査

### 2. 「能登の里山里海」の活用による魅力向上

- ・地域旅行商品の造成
- ・案内人の育成
- ・販売・プロポーシオン体制・地域情報アーカイブ事業
- ・里山里海を体感する旅行目的地の活性化



## 目標

- 奥能登観光における公共交通利用の割合増加
- 新たな旅行商品造成による交流人口の拡大と地域活性化

## 期待される効果

- 金沢からのアクセス機会増大による日帰り観光の実現
- 奥能登(珠洲市・能登町)への観光入り込み客数の拡大

## 取組主体・関係者

- 珠洲市・能登町広域公共交通活性化協議会(観光団体、地域経済団体、交通事業者、珠洲市、能登町)
- …自治体域を越えた官民の連携

## 具体的な政策課題

### 北陸新幹線開業をみすえた奥能登公共交通の整備

- ・マイカーやレンタカーの依存度が高く、積雪期を中心に、自動車運転に不安を感じるシニア層や女性、若年層が奥能登を観光目的地として選定しにくい状況。
- ・新幹線で来訪した旅行者が、公共交通で奥能登を来訪・周遊できる環境が必要。

### 世界農業遺産「能登の里山里海」の活用による魅力向上

- ・世界農業遺産の構成要素などの地域資源を活かす取組が不十分。これらの資源は生活に立脚していることから、地域住民が中心となって魅力を掘り起こすことが必要。
- ・官民が連携し、旅行プログラムの企画や、運用のための体制、プロモーション、販売体制の構築などが必要。

## 解決策・取組

### ① 珠洲・能登シャトルバス運行【特定地域再生事業費補助金】

- ・既存の鉄道や特急バス路線を活用したシャトルバス(フィーダー路線)の運行による旅行者の移動ニーズへの対応

### ② えんむすびーちミニ交通事業【国土交通省】

- ・見付海岸(珠洲市)と恋路海岸(能登町)を結ぶ“恋路見附”の超小型モビリティの運行による周遊環境を整備

### ③ レンタカー活用可能性調査【自主的取組】

- ・奥能登の観光・交通拠点で自由に利用できるレンタカーの可能性を調査・検討



### ① 珠洲・能登里山里海ツアー造成事業【特定地域再生事業費補助金】

- ・世界農業遺産構成要素などの地域資源を活かした着地型周遊ツアーを造成する。ツアー造成にあたっては、地域団体や観光協会が連携し、体験モニターツアーを実施。地域情報の収集、PR活動を展開。



### ② 恋路見附体験メニュー開発【特定地域再生事業費補助金】

- ・見付海岸(珠洲市)と恋路海岸(能登町)を結びつけて地域イメージを形成するイベントやアクティビティメニューの開発、プロモーションを展開。

### ③ 見付海岸再編整備事業【自主的取組】

- ・奥能登観光の集客拠点のひとつである見付海岸の施設再編を図り、来訪者の滞在時間の伸長と消費行動に結びつけるとともに、旅行目的地としての新たな魅力創出を図る。

平成 27 年～ 本格実施